

農業の新しい技術

No. 759

(令和6年(2024年)6月)

分類コード 01-14

熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室

担当者：福島敬太

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、産肉能力現場後代検定及び育種価評価を実施し、その結果に基づき優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

- 枝肉重量、ロース芯面積、ばらの厚さ、歩留基準値に優れた褐毛和種種雄牛「菊波泉ET」を選抜した。

○血統

父 菊光丸
(高 86)

祖父 第三光丸(高 71)

— 光武(高 58)

祖母 なみふく☆(育高 614)

— 光重ET(育高 1)

母 なみよ☆
(繁殖 18614)

祖父 波泉(繁殖 116)

— 光玉波(高 80)

祖母 第六しげこ☆(育高 635)

— 第十光丸(高 76)

○登録番号：繁殖 240

○生年月日：令和元年6月3日

○生産地：合志市(熊本県農業研究センター)

- 現場後代検定成績および育種価

○枝肉重量は去勢 545.1kg、全体平均で 512.1kg と優れており、育種価でも 74.37(評価種雄牛 543 頭中 2 位)と極めて高い評価となった。

○ロース芯面積は去勢 62.7cm²、雌 62.5cm²、全体平均で 62.6 cm²と優れており、育種価でも 15.98(評価種雄牛 543 頭中 2 位)と極めて高い評価となった。

○SBV^{*}は枝肉重量 3.48、脂肪交雑 1.54、ロース芯面積 4.27、ばらの厚さ 2.69、歩留基準値 3.09、日齢枝肉重量 3.35 と肉量について改良効果が大いだと推定される。

※SBV(標準化育種価)とは、産肉能力の特徴を把握しやすくするため、各形質の育種価を同一スケール上で比較できるよう加工したもの。

- 特徴

本牛は、当時、ロース芯面積、ばらの厚さ、皮下脂肪、歩留基準値、脂肪交雑の育種価が県内上位 10%以内(現存牛 3,122 頭中)とトップクラスの母牛に質を兼ね備えた「菊光丸」の交配により作出された。それぞれの遺伝的特徴を引き継ぎ、枝肉重量の全体平均は 500kg を超え、育種価評価における歴代順位は枝肉重量およびロース芯面積で第 2 位、ばらの厚さが第 7 位、歩留基準値が第 6 位と高い能力を有しており、肉量の改良への貢献が期待される。

[具体的データ]



菊波泉 E T (きくなみいずみイーティー)

熊本県農林水産部



産子(去勢)枝肉写真・成績
格付:A-4 枝重:620.3kg
BMSNo.7 ロース:59cm²
ばら:8.8cm 母の父:光晴重

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMSNo.)	ロース 芯面積 (cm ²)	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	歩留 基準値 (%)
去勢	6	545.1	4.17	62.7	8.2	3.1	73.4
雌	10	492.4	3.20	62.5	7.8	3.1	73.9
全体	16	512.1	3.56	62.6	8.0	3.1	73.7

表2 育種価(BV) (R6.3月評価)

	順位	育種価	(正確度)
枝肉重量 (kg)	2	74.37	(0.86)
BMSNo.	47	1.93	(0.88)
ロース芯面積 (cm ²)	2	15.98	(0.84)
ばらの厚さ (cm)	7	0.94	(0.85)
皮下脂肪の厚さ (cm)	82	-0.48	(0.88)
歩留基準値	6	2.24	(0.87)
日齢枝肉重量 (kg/日)	2	94.32	(0.86)

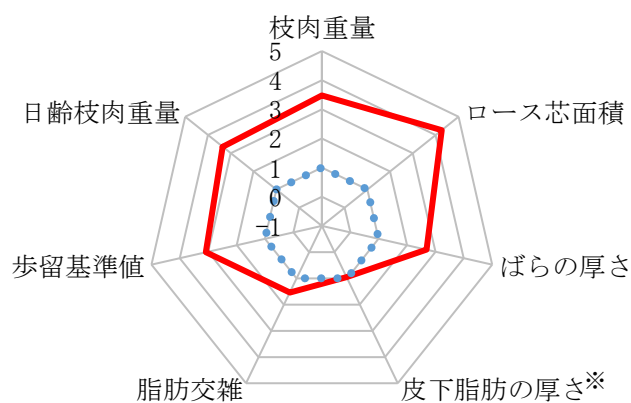


図1 SBV (標準化育種価)
※ 皮下脂肪は逆符号

後代頭数 16 頭(フィールド成績を含む)

順位は評価種雄牛 543 頭中の順位